

②

そもそも「103万円」というのは

給与所得控除 55万円

基礎控除 48万円

の合計なんだ

①

103万円の壁が  
引き上げられて  
160万円に!

これで  
私たちの負担も  
軽くなるね?

ちょっと  
待ったー!

④

ラインを超えて  
所得税の課税対象になると...

扶養控除の  
適用外に  
親や配偶者の  
税負担が増える

健康保険の扶養  
適用外の可能性も  
自分で保険料を  
負担することになる

住民税の負担も  
増える  
地域によっては  
年間10万円以上  
になることも

③

この103万円  
のラインを超えて  
得た収入は  
所得税の課税対象  
になる

所得税  
課税対象

給与所得控除 55万円

基礎控除 48万円

そうそう!  
だから超えない  
ようにシフトを  
組んだりするね  
本当はもっと  
稼ぎたいけど...

Illusts:Aro



全商連ツイッター

配信中

リンのあきないのコツ

検索

⑥

日本の基礎控除は  
1995年以来、  
ほぼ据え置き：  
2020年に38万から  
48万円に上げたけど  
給与所得控除を削減！

一方、ドイツは  
**最低限の生活費への  
課税は違憲！**  
という判決が出て  
生活保護基準以上に引き上げた！

⑤

フリーランスなどの  
非給与所得者は**基礎控除のみ**  
なので課税ラインは  
さらに下がる！

**所得税  
課税対象**

**基礎控除  
48万円**

まずは  
基礎控除が  
大事なのか！

103万円  
よりも  
基礎控除の  
引き上げが  
優先だよ！

給与所得控除  
55万円

⑧

いま必要なのは  
**基礎控除の  
大幅な引き上げ！**  
富裕層への税率を  
昔の水準に戻せば  
**12兆円の財源**  
を確保できる  
試算も！  
**5年で43兆円**  
という大軍拡を  
やめることも  
大切だよ！

この投稿をシェア&コメントして  
みんなで考え、制度を変えよう！

⑦

さらに各国の基礎控除額を  
比べてみると…

アメリカ 209 万円	ドイツ 184 万円
フランス 179 万円	イギリス 237 万円

日本は低すぎ…



全商連ツイッター

配信中

リンのあきないのコツ

検索 🔍

Illusts:Aro